

# 本能まちづくりニュース

第4号 平成12年6月25日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

## 本能再発見第2弾 開催される

6月7日、午後7時から元本能小学校会議室で、本能再発見第2弾が開催され、約50名の参加がありました。

はじめに西嶋委員長から「6月の委員会から、交流を促進するための部会と町並み部会との2つの部会のなかで活動していきたいと思います。旧来の住民の方々と新しく入ってこられた方々とが融和していけるような交流を促進していける部会、これからの町並み考えていく部会として活動していきたい」とあいさつがありました。



第1部は、～わたくしたちのまち本能は今～と題して本能再発見活動報告会が行われました。

「本能のまち 再発見」町あるきツアーの参加者が撮影した写真のうち世話人会で選ばれた19枚の写真をもとに、選者と撮影者がそれぞれの思いを述べました。町の中で、ふと見つけたもの、将来に残しておきたい風景、現在の町

並み、違和感を覚えた風景などの発表がありました。

第2部は、新京都シティ観光ボランティアガイド協会幹事 山田久男さんによる講演「本能寺と信長」がありました。氏は講演の中で本能寺のこと、なかでも、氏の職業が現役の消防士とあって、本能寺が過去6回も火災にあったことや本能学区のこと、明智光秀のこと、織田信長のこと、そして最後に本能寺の変のことなど諸説を交えながらのわかりやすい解説に参加者は耳を傾けていました。

特に本能学区の歴史のなかで、平安時代には崇徳上皇（三条西洞院）、南北朝時代には足利直義（錦小路堀川）、秀吉の時代には、朽木伊予守（蛸薬師通油小路東）、藤堂和泉守・古田織部（堀川高校あたり）、紀井中納言（西洞院三条下）、久留米

藩有馬氏（西洞院四条上）、小堀遠州（越後突抜町）、織田有楽（池須町）など貴族や武家の屋敷が数多くあり、陳外郎が蛸薬師通に薬師問屋を開いた。また、空也堂はもともと三条通櫛笥（三条大宮西）にあり、寛永年間（1630年）に現在の亀屋町に移された。また、南北朝時代にはすでに材木屋や染屋が多くあったなど詳しく述べられていました。

第3部は、神心流尚道館・中島子風さんによる詩吟、頼山陽作「本能寺」などが演じられ午後9時に終了しました。

### 資料 信長のころの本能寺

南北を蛸薬師通と六角通、東西を西洞院通と油小路通に限られた広大な寺域を占めていた。当時の結構は詳らかでないが、「洛中洛外図」（上杉家蔵）にも本能寺と思しき伽藍が描かれている。境内東側を西洞院川が流れ、土塀が西洞院川を越えて西洞院通まで延びている。西洞院川はそのまま濠の役割を果たしていたと思われる。境内には、東西、南北に棟を置く仏堂が描かれ、西方の土塀で画された一郭には、板葺入母屋造りで狐格子を付した建物や、切妻屋根の建物が配置されている。



洛中洛外図（上杉家蔵）から本能寺

これらの建物の名称はわからないが、本興寺（尼崎）や妙覚寺古図などによって推測すると、板葺の仏堂は本堂、開山堂、祖師堂などにあたるようである。そして土塀で画された一郭の住宅風の諸建築は、大方丈、小方丈、庫裏などであったと思われる。

大小の方丈は初期の書院造りの様式を備えていたと思われる。尾張での信長の家臣の中には、すでに公家を驚かすような数奇座敷をもっていたことから、本能寺の方丈にも数奇座敷があったかもしれない。6月2日弘暁、光秀の急襲を受け、よく防戦したが、やがて紅蓮の炎の迫る居室に入り自刃して果てた。おそらく小方丈の一室においてであっただろう。（NHK 歴史への招待より）

当日飛び入り  
大歓迎！

本能まちづくり委員会・委員総会の開催日

平成12年7月3日（月）午後7時より

ばしょ：本能自治福祉会館2階 小川通蛸薬師下ル

## 交流促進部会・まちなみ部会発足する

6月月例委員会で、本能まちづくり委員会の中に、より実りある活動とするために交流促進部会とまちなみ部会が設置されることになりました。それぞれの部会長に交流促進部会には、杉下浩教さん、まちなみ部会には、中村光雄さんが就任されました。

### 交流促進部会 部会長 杉下浩教

我々、交流部会の目的は学区の皆様の交流を促進し、相互理解を図ることにあります。かつて、本能学区は染の街、職人の街として繁栄し、人口も多く、地域としても活気にあふれていました。いわゆる職住一体の学区でした。しかしバブル崩壊、和装不況などにより旧来の住民が転出され、逆に新築マンションの皆様が転入されました。新旧の住民が混在して住むという状態です。当然旧知の仲では無いのであいさつはしても会話までは という方もいらっしゃるでしょう。そこで交流促進部会としては新旧の住民だけでなく、全学区民の垣根を取り払い、皆様の交流を促進して頂ける機会を提供していきたいと思えます。まちづくりの主役は区民の皆様です。この街を愛して良かった、住んで良かった、という気持ちをもつ事が大切だと思えます。これから色々なイベントを提供させて頂きますが、皆様のご意見を頂戴し、それをフィードバックしていきたいと思えます。積極的なご参加を心よりお待ちしております。

## お知らせ

### E-mail アドレスをお知らせください!

今後、本能まちづくり委員会からの情報をお伝えしたいと思います … 計画中  
お名前・メールアドレス をメールでお知らせください

連絡先 →→→→ okada@ky.xaxon.ne.jp

### 本能まちづくり委員会に興味のある方

連絡先 →→→→ 西嶋直和 221-6826 TEL/FAX 兼用

現在、まちなみ部会で本能まちなみ姿図を作成中です。

本能まちづくり委員会の掲示板ができました。元本能小学校まえと本能公園

### 交流促進部会委員の皆さん(順不同)

|       |      |      |      |
|-------|------|------|------|
| 西村かずよ | 園 寿一 | 倉部邦夫 | 服部昭利 |
| 仁科繁一  | 永井崇博 | 苅谷謹子 | 松本修子 |
| 西村嘉朗  | 木村孝次 | 岡山 悟 | 安西賢一 |
| 杉下浩教  |      |      |      |

### まちなみ部会 部会長 中村光雄

本能まちづくり委員会が発足して早6ヶ月がたちました。今回委員会のより充実した運営と活動をめざし二つの部会を発足することになり「まちなみ部会」を担当することになりました。これからいろいろと本能学区の皆様とともに歴史ある町又、職人の町でもある本能のまちづくりを考えていきたいと思っております。

当部会では、今の本能の町並みを記録する作業に現在入っており、それと平行して「本能再発見」などいろいろな活動を通して本能の町を考えていきたいと思っておりますのでご協力をお願い申し上げます。

### まちなみ部会委員の皆さん(順不同)

|      |       |      |       |
|------|-------|------|-------|
| 富田文雄 | 坪内三郎  | 馬場孝造 | 西郡晃雅  |
| 羽田英晴 | 大井市郎  | 真田由和 | 高山禮蔵  |
| 北尾靖雅 | 安西圭之助 | 岡田 稔 | 平野雅左夫 |
| 西嶋直和 | 中村光雄  |      |       |

### 編集後記に代えて

山田久男さんの講演の中で、蠶螂山町の陳外郎のことが出てきました。下郎と書いてういろろと読みます。ういろろといえば名古屋名物青柳ういろろや大須ういろ、京都にも五建外良(ういろ)などお菓子を思い出しませんか。その一方で「拙者親方と申すは、お立会の中に、ご存知のお方もござりましょうが、お江戸を発って二十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、…」で始まる歌舞伎の口上**下郎売り**もあります。この下郎は小田原名物透頂香ういろろという菓のことです。この菓子と菓の外郎、同じ名前がついていて、どちらの由来にも共通していることは、1368年元の順宗が明に滅ぼされたとき、元の大医院礼部員外郎職にあった陳宗敬は寧波から博多に亡命し陳外郎と名のつた。その子孫が、足利義満に招かれ靈宝丹を献上した、ということです。菓はこの後、5代目外郎藤右衛門の時北条早雲に招かれて小田原に来住したことにより、小田原名物となったとされています。

一方、菓子は、靈宝丹が後小松天皇に献上された時、口直しに添えられたのが黒糖と米粉で作った菓子を外郎餅と呼ばれたことに由来しているといわれています。また、五建外良の由来によると、京都に移住したところが、西洞院四条上ル辺りは「外良町」と呼ばれたとも記されています。「外良」はういろろと読みますが、「外」を「と」と読めば、とろろとも読めます。「外良町」あるいは「外郎町」と「蠶螂山町」(とうろうやまちょう)どこかにていませんか。 M.O